

平成 28 年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年4月3日

研究・研修課題名	専門作業療法士取得のための研修補助 認定作業療法士取得のための研修補助
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部 （所属：リハビリテーション部 総括責任者 馬庭 壯吉）
研究・研修責任者名（所属）	森脇 繁登 （所属：リハビリテーション部 作業療法士）
共同研究・研修者名（所属）	竹内 雪絵, 吉田 朝海, 大西 友香 （所属：リハビリテーション部 作業療法士）

目的及び方法、成果の内容

①目 的

日本作業療法士協会は、臨床現場での実践の質の向上を目的とした「認定作業療法士」および「専門作業療法士」の資格取得を推奨している。本資格取得には、定められた研修の履修や必要な単位等を取得する必要がある。当院のような急性期病院では、作業療法を実施する上で、前述した資格を取得し、急性期において活かしていくことは、実践の質の向上のために不可欠なものである。

本研修の最終的な目標は「専門作業療法士」の取得を目指すことであるが、協会の規定から、まずは「認定作業療法士」を取得することが必要である。当院はすでに作業療法士 1 名が「認定作業療法士」の取得に至っている。そこで本研修は、認定取得者は専門作業療法士の取得を、そして認定未取得者は認定作業療法士取得に向けて、定められた研修の履修および必要ポイントの取得を目的とする。

②方 法

附属病院リハビリテーション部所属の作業療法士が所定の講習会および学会に参加し、必要なポイントを取得する。以下に認定作業療法士、専門作業療法士の概略を示す。

～認定作業療法士の取得要件～

- 共通研修（必須）：「教育法」「研究法」「管理運営」
- 選択研修：「身体障害領域」「精神障害領域」「発達障害領域」「老年期障害領域」
(2 講座以上の受講が必須)
- ポイント数：50 ポイントを取得
- 症例報告：事例報告登録制度に 3 事例の登録

～専門作業療法士取得要件～

- 認定作業療法士の取得
- 研修実践 20 単位
- 臨床実践 20 単位
- 研究実践 10 単位
- 教育と社会貢献の実践 10 単位

③成 果

- (成果) 森脇繁登 9月9-11日 第50回日本作業療法学会
竹内雪絵 8月27・28日 認定作業療法士 選択研修《身体障害10》
10月1-2日 認定作業療法士 共通研修《管理運営6》
12月3・4日 認定作業療法士 共通研修《教育法8》
吉田朝海 7月30-31日 第1回ハンドセラピィ学会全国研修会
12月17-18日 ハンドセラピィ学会認定養成基礎研修会《入門セミナー》
2月26日 第3回SW-test講習会
大西友香 2月4-5日 第59回作業療法全国研修会

(成果詳細)

平成28年9月9-11日に札幌市にて開催された第50回日本作業療法学会に参加した。今回の学会テーマは、「半世紀の実績と将来への展望」であった。作業療法士の社会的貢献について、大会長の清水兼悦先生（公益社団法人 北海道作業療法士会会長）より分かりやすくお話を頂いた。さらに、初日のモーニングセミナーでは作業療法研究学会主催のセミナーに参加し、自身の研究分野の意義を改めて感じることができた。また、本学会では当院作業療法士1名が神経難病支援者における精神機能についてポスター発表を行った。質疑では、研究をどのように発展させていくかが議論となり、金沢大学附属病院の作業療法士より、今後の研究活動に対する貴重な意見を頂いた。本学会に参加・発表により生涯教育ポイント6ポイントを取得した。さらに、認定作業療法士の更新も併せて行うことができた。

平成28年8月27-28日、10月1-2日、12月3・4日に開催された認定作業療法士共通・選択研修に当院作業療法士1名が参加した。本研修は、原則2日間を履修し、研修会終了後の修了試験に合格しなければならない。本年度参加した研修テーマは「身体障害の作業療法～急性期、回復期から地域生活へと繋げる臨床実践について～」、「管理運営」、「教育法」であった。1回目は8月27-28日に松山市総合コミュニティーセンターで開催され、急性期から回復期、生活期への病期過程においてどのように支援者間の連携および対象者のサポートをしていけば良いのか、講義とディスカッションにて学ぶことができた。そして、2回目は10月1-2日に大阪市新大阪丸ビルで開催され、職場における管理・運営について学んだ。特に、組織や個人の目標設定・業務の円滑化などの方法や考え方について講義およびグループ検討を行ったことで、適切かつ円滑な管理・運営の方法について知見を広めることができた。3回目は12月3・4日に東京都 日本作業療法市協会事務局で開催され、学生および後輩育成における教育方法について学んだ。講義およびグループ検討を通して、教育における倫理や個別性のある指導の重要性について再認識することができたと同時に、日本各地の療法士の意見を聞くことができたことで、柔軟かつ多角的な視点につなげることができた。また各研修終了後の修了試験も全て合格することが出来た。急性期における作業療法の展開として、今回の研修会を活かしつつ、当院なりの工夫を模索しながら、患者サービスの向上に向けて引き続き臨床に励んでいきたい。なお、研修会に参加により認定作業療法士共通・選択研修を修了し、生涯教育ポイント12ポイントを取得した。

平成28年7月30-31日に兵庫医療大学において開催された、第1回ハンドセラピィ学会全国研修会に参加した。研修会において基礎講座では前腕・手・指についての機能解剖学や感覚・知覚に関する検査法など改めて学び、実践講座においては早期運動療法や触診の仕方など、日々の臨床業務に活かせる知識を得ることができた。臨床研究や実践研究についての講義では作業療法士としての視野を広げることができた。今回の2日間の研修会において、生涯教育ポイント2ポイントを取得した。

平成 28 年 12 月 17-18 日、兵庫医療大学において開催された、ハンドセラピィ学会認定養成基礎研修会「入門セミナー」に参加した。今回の研修内容は「ハンドセラピィに必要な基礎知識と実際」として、手の機能解剖学から疾患別のハンドセラピィまで幅広く講義をして頂いた。臨床現場において手の外科領域の対象者を診ていくために必要な基礎知識を得ることができ、治療の幅を広げることができた。今回の 2 日間の研修会において、生涯教育ポイント 2 ポイントを取得した。

平成 29 年 2 月 26 日、慶應義塾大学病院において開催された、第 3 回 SW-test 講習会に参加した。講習会では、SW-test による静的触覚の評価方法について講義で学び、実習では実際にセメスワインスタインモノフィラメントを使用し、実践的な技術を得ることができた。また、マニュアルを持ち帰り、院内で伝達講習を行い今回の講習会で得た知識や技術を共有することができた。講習会終了後、受講証明書を頂き、末梢神経断裂、縫合術後又は絞扼性神経障害の患者に対して SW-test を用いることで精密知覚機能検査（280 点）の算定が可能となった。

平成 29 年 2 月 4-5 日にくまもと森都心プラザにて開催された第 59 回作業療法全国研修会に参加した。研修会では、「地域包括ケアシステムに向けての作業療法の取り組み」をテーマに、作業療法士が取り組むべき今後の課題やアプローチ例の講義が行われた。研修に参加し、今後高齢者人口が増加していく社会での、作業療法士の支援方法や在宅生活を見据えた支援の重要性など多くのことを学ぶことができた。今回学んだことを活かし、発症直後の介入から在宅生活を見据えたアプローチがいち早く導入できるよう努めていきたい。なお、今回の研修において生涯教育ポイント 4 ポイントを取得した。